

報 告

ソフォモアセミナーにおけるグループウェアの活用

A Study on Groupware Tool on the WEB for
the Sophomore Seminar藤 本 孝一郎*
FUJIMOTO, Ko-ichiro

概要：経済学部のソフォモアセミナーの授業運営に、WEB上のグループウェアを採り入れ、グループ学習の新たな試みを実践した。Web上のグループウェアサービスを利用して授業サイトを形成し、セミナーでのグループ内、グループ間での協同作業や発表・コミュニケーションおよび授業全体の進行管理を効果的に進める手法である。

【キーワード】 演習授業、コラボレーション、学習コンテンツ、教育実践システム

はじめに

城西大学経済学部のソフォモアセミナー複式簿記の基礎論点学習を支援するために、グループウェアを活用する方法を考案した。小グループごとでの学習をグループウェアを通じて協同することにより、授業理解を深める方法である。そのためWeb上のグループウェアサイトを利用した。

なおシステムは城西大学におけるパーソナル・コンピュータ・システム（Windows 2000）を用いた。Web接続可能な、TCP/IPプロトコルによるLAN小教室で40数人ソフォモアセミナー授業を対象とした。

1. 演習授業と協同作業

1.1 グループウェア

一般に、50人規模での演習授業の実施には、種々の工夫が必要である。教授者にとって、特に、班やグループ毎のテーマによる共同作業を内容とする場合は、全体の運営に十分な配慮が必要である。ところで人間の協調作業を支援する技術はグループウェア（Groupware）と呼ばれる。近年、コラボレーションを支える豊かなコミュニケーションを、高機能な次世代ネットワーク上で実現する種々の試みがなされている。グループウェアには、同じ時間に、同じ場所に集まった人の協調作

* 城西大学女子短期大学部

業を支援するものから、各グループのメンバーが遠く離れた場所の、違う時間での作業を支援するものまで、多様な支援形態がある。そこでパソコン機器を利用したプレゼンテーションを小グループごとに作成・発表する演習授業の運用に利用を試みた。

1.2 プレゼンテーションと演習授業

従来、情報技術を利用した協同作業による学習の効果的手法について検討してきた。その学習分野の一つにグループ作業による発表演習がある。パソコン等情報機器を利用したプレゼンテーションを小グループごとに作成・発表する授業には、いくつかの困難がある。とくに情報関係授業の未受講者や初学者が存在するクラスでは、授業補助者のない環境では指導に困難さが伴う。そこでグループウェア技術を利用し、Web環境を通じた情報リテラシー学習と授業運営の効果に着目した。

2. Webグループウェアを活用した学習支援方法

2.1 目的と方法

WWW技術の理解を伴う情報リテラシーの学習を支援する授業運営を目的とした。そのためにWeb上のグループウェアサービスサイトを利用し、テーマ領域毎にグループを形成する。受講者はプレゼンテーションソフトの基本操作の理解とともに資料収集を行う。結果はWeb上にファイルとして保存する。さらにネットワークを利用した教授者の確認を経て、プレゼンテーション演習を行う。その後、発表内容についてクラス全体の質疑検討を通じ、検討結果をグループ各自にフィードバックし、レポートとしてまとめる。

なお、プレゼンテーションソフトはMicrosoft Power Pointによった。

2.2 環 境

TCP/IPプロトコルでLAN接続された小教室（パソコン40台）で、Web上のサイト提供ホームページと接合できる環境で、サーバを必要としないシステムを利用した。グループウェアサービスサイトは3種類から適当なものを選び適宜利用した。またWeb上にグループフォルダを作成し、続いて作業領域、データ交換領域を形成した。

2.3 準 備

ゼミナール関係授業の一つをとりあげ、年度内2ヶ月を実施期間とした。教授者は、あらかじめWeb上のグループウェアサービスサイトを利用し、グループホームを準備しておく。メンバーリストに担当者アドレス番号と名前を登録する。ログを採取・保存する。約6人で1グループとし、情報技術の上級者には別途興味あるテーマを討議させた。

図1 グループフォルダ



ラムに追加されたメッセージ数です。

グループサイトの管理者は、ツール>サイト管理>管理ツールから、
です。(体験版では利用できません)
※未読/既読機能が追加される前にご登録いただいたメッセージに
全て既読にするには、各フォーラムのタイトル一覧画面上部にある
用できません)

フォーラム追加

閉覧したいフォーラムの表示方法を選択してください

FUJIsophoBBS

14年度グループウェアテーマと学習について

[タイトル一覧とメッセージを表示](#) [タイトル一覧を表示](#)

先生より

[タイトル一覧とメッセージを表示](#) [タイトル一覧を表示](#)

図2 グループホームの一部



共有フォルダ

共有フォルダによりメンバー間でファイル(文書・
アクセス権を設定することもできます。

[ファイル追加](#) [フォルダ追加](#) [フォルダ](#)

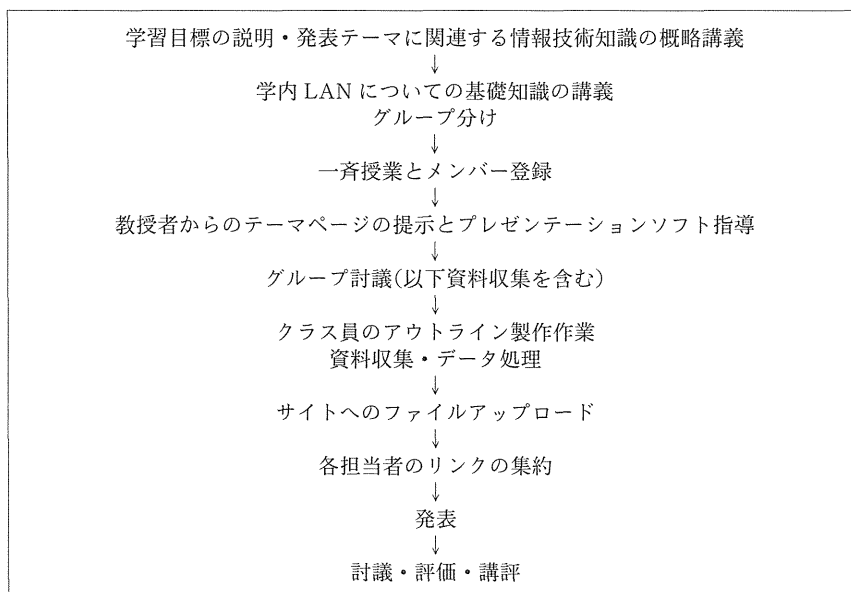
表示順: [タイトル](#) [フォルダの表示](#)

タイトル ファイル

共有フォルダ

- 一般FUKIMOTO
- 一般チームV
- 一般サール
- 一般リョウ
- 一般るみわい
- 一般先生チーム
- 資格検定チーム
- 初心者Aチーム
- 初心者Bチーム
- トビチーム

図3 授業概観



Web 各自の学習補完のため、関係論点の講義につづき、グループ作業テーマ決定等の概略を示し、復習学習と協同作業を通じた論点理解を目的とした。

3. 運用

3.1 準備

授業全体を次のような過程で構成した。前期・後期の各授業期間で一定の目標設定を行い運用した。履修学生を情報技術水準ごとに大きく分け、各々をいくつかのグループに分けた。

3.2 教授者と受講者

はじめに授業方針・学習論点を提示し、このとき専門用語等をテキストでの確認も行う。グループホームページを形成し、サイトのメンバーリストを作成する。代表担当者を置き、グループカレンダーによる作業進行を示す。各グループ構成員は、相互に作業データをやりとり確認後、最終集約データとし、ホームページに保存する。

4. 結果と検討

一応の進行を経た段階での中間評価を検討した。

・教授者からは、各連絡が容易となった反面、下準備（ページ更新や、指示登録など）に手間がか

かった。

- グループ進行過程を WEB 上で確認でき、授業へのフィードバックが可能になった。
- グループごとに出欠状況が異なり、途中で、グループ再編などグループ管理と技能習得進行で問題があった。
- 担当者はフォームを電子メールで、教授者へ送信する。処理結果をブラウザ、プロジェクター等の表示によって、クラス全体で確認し質疑を行う。教授者は学習論点の再確認と発展を示す。
- 後期はプロジェクター教室が確保できず、授業進行に負担となったが、HTML ファイル化により各マシンによる発表形式となった。
- また後期より、バックボーン環境の変更にともない、ネット環境に問題が生じ、修復に手間がかかった。
- 無料サービスの条件である、広告データに配慮が必要であった。
- メール情報などセキュリティに若干の不安があった。

おわりに

現在、なお、情報環境の困難さをかかえながら、いくつかのパターンで適宜授業を進めている。年度末を迎え、新しい教育手法としての評価を進め、情報技術を利用した協同作業をより発展させたい。

参考文献

- 1) 立川・飯島編，高原・藤本他共著，企業変革とグループウェア，日刊工業新聞社（平成9年12月）
- 2) 飯島・立川・高原・島田・藤本，他，グループウェア研究部会報告書，オフィスオートメーション学会（平成8年）
- 3) 藤本・竹本，他，商業教育における小規模ネットワークの活用，教育システム学会全国大会発表論文集（2001年）